

さくくら RA



Aug.2018

発行/ボーイスカウト世田谷第5団広報部

ビーバー隊 7月1日 合同ドッチボール大会

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

恒例行事となった地区合同ドッチボール大会に参加しました。会場の多間小学校まで三軒茶屋から歩きます。住宅街を通る細く、複雑な道を通りますが、いつも通り行きに『帰りはスカウトの指示通りに行くから』と告げ、曲がる所をしっかりと覚えてもらいます。

到着後、全体での開会セレモニーと準備体操をして早速団対抗のドッチボール大会スタートです。5団ビーバー隊は毎回かなり強いのですが、今年も同率ですが1位を取れました。その後は大人対小人でビーチボールサッカー！大人の底力を存分に見せた形となりました。

昼食後、行きに予告した通りスカウトの指示通りに帰ります。一部意見が割れた場所もありましたが、無事に帰ることができました。

べたりもしながら無事に九品仏に戻りました。



7月22日 ペットボトル水鉄砲

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

酷暑が続くなか、室内での涼し気なプログラムとなりました。各自持参したペットボトルにストローを挿して水鉄砲を作ります。キャップにキリで穴をあけるのが一番難しいところで工作自体は簡単です。

出来上がった水鉄砲を持ってねこじゃらし公園でゲームです。びしょりになったスカウトや滑ってズボンを泥だらけにしてスカウトもいましたが、元気に楽しくプログラムを終えることができました。



カブ隊

7月8日 大使館ハイク

CS隊副長 太田雄介

西日本の大雨による被害が心配で、晴れているのが何だか申し訳ないような気持ちになりましたが、日曜の東京は熱中症を注意しなければならいほどの天候でした。暑かったです。

5回の活動地域近隣の住宅街には大使館が多くあり、今回はそのうちの6つ(ケニア・トーゴ・スーダン・アゼルバイジャン・ガボン・ルワンダ)を回りました。名付けて「大使館ハイク」。数カ所を歩いて回ったらトイレ休憩を兼ねて公園に寄り、それまでに見た国についてクイズ形式で学ぶ、ということを一セットにして、近所にあるのに何も知らない大使館のことを、子どもたちが身近に感じることができるようになるプログラムを目指しました。

はじめはケニア大使館。下見のときにはあった国旗がなぜか掲揚されていなかったのでも焦りましたが、表札横にあった国章を指差して説明。マサイ族の盾と槍が中央に掲げられている点は国旗も国章も共通です。

その後、八雲氷川神社に寄り、神道の参拝の仕方を説明。今期初の神社参拝になりました。次にトーゴ大使館。ここでは国旗が揚がっていました、よかった。風がないので下を向いた国旗を指して、子どもたちに、よく観察してデザインを覚えるように伝えます。三箇所目はスーダンです。駐車場が空いていたので、つま先だけ踏み込んで「外国に入っちゃった!」とか「パスポート持ってきてない!」なんてはしゃぐ子どもたち。

続いて、近くの公園の木陰で振り返りの会をします。各国の写真を見ながらの簡単解説と、国ごとに「地図上の場所当て」「国旗当て」「国にまつわるトリビアクイズ」を3問ずつ出題しました。僕の説明をよーく聞いて、大使館の様子をよーく観察していれば、だいたい答えられるクイズです。聞こえてくる声によると、なかなかの正解率のようでした。さあ、どうなるか。

続いて、アゼルバイジャン大使館を目指します。東京医療センターそばの緑の多い住宅街にある素敵な建物で、隣にはエジプト大使館の分館(文化にまつわることを扱う建物のような)がありました。緑道を抜けて角を曲がると、ガボン大使館が現れます。ここもまた感じのいい洋館です。風で国旗がたなびくのを待って、みんなでデザインを確認します。近くの駒沢公園まで移動して、その一角にある「ぶた公園」で二度目の振り返りクイズ。アゼルバイジャンは東西の間に位置するという地理的優位性と、産油国という利点を生かして、21世紀に入ってメキメキ発展している国の一つだそうです。オリエンタルムードいっぱいの旧市街の先に、未来的なビル群が立ち並ぶ写真を見て、子どもたちは(リーダーのみなさんも)目を輝かせていました。

クイズのあとは、そのまま駒沢公園内の木陰でカブ弁タイム。予定よりも早く移動できたのでゆっくり時間をとりました。

午後は駒沢の住宅街を抜けて、少し離れたルワンダ大使館へ。本日の最終目的地です。テニスコートの向かいにある普通の住宅のような佇まいで、ひとくちに大使



館と言っても色々あるんだなあと思いました(中にはマンションの一室とか、高いビルのワンフロアなんてところもあるようです)。

予定より1時間くらい早く九品仏に戻りました。最後のルワンダのクイズ。大人には90年代の内戦で起きた「ルワンダ大虐殺」のイメージがありますが、近年は政情が安定し「ルワンダの奇跡」と言われるほどの発展を遂げているそうです。また、自然が豊かで野生のゴリラのうち半数がルワンダに生息しているとのこと。

余った時間を利用して、カブブックの履修をし、終わりの会へ。終わりの会ではクイズの優秀賞として、アフリカの架空の国「ワカンダ」を舞台にした映画「ブラックパンサー」のマークを模したメダルを1組に贈りました。出席率の良さも得点に繋がったので、平均点ではなく、個人点の累積点で評価しました。個人賞は用意しませんでした。吉成さんと和田くんが満点を取っていました。その他にも、あと一歩で満点という子が何人かいました。リーダーの皆さんでも、満点はなかなか難しかったと思うのですが、すごいなあ...

このハイクの準備のために、いろいろと各国の実情を調べましたが、自分が子どもの頃に描いていたアフリカ像から、世界はずいぶん先に進んでいることを強く認識させられました。思えば、いまや黒人が当たり



7月22日 舎営準備

CS隊副長 青木由美

22日、夏季舎営準備の活動がありました。まずは荷物のチェック。新聞紙一枚のスペースに荷物を出し記名や忘れ物などを確認。その後は葉の読み合わせ。舎営の約束などをスカウトがしっかりよみあげていきました。また舎営ではスカウト全員が何かの係となるため、各組に分かれ、係決めを行いました。うさぎスカウトもきつと責任を持って役割を果たすことでしょう。

さて、カブでは一年の活動を通して組で競い合います。ゲームやクイズ、また生活面でもスカウト達は競い合うことに熱心に取り組めます。

その取り組みの中間発表がこの日にありました。結果を見て、スカウト達のやる気が上向きになったと

前のように様々な分野のリーダーやヒーロー、スターになっていますし、先ほど話題に出した「ブラックパンサー」もアフリカンアメリカンの置かれてきたタフな状況を主題に据えながらも、物語自体は非常にポジティブに語られているのが印象的な映画でした。21世紀はアフリカの時代、と言われていますが、本当にその状況は目の前にまで来ていると思います。スカウトたちが大人になったときに、今日歩きながら学んだことを思い出しながら、世界と向き合ってくれたらいいな、と思いました。

2組 うさぎ

暑くて、水とうの水が空っぽになりました。こんなにつかれるとは思いませんでした。足が痛くなりました。

1組 くま

今日、僕は大使館めぐりをして、6か国の国旗と国旗の意味、そこで起こったことなどを知れました。1つの国から分裂した国は色んなことがあって分裂したことは僕には悲しいです。でも、それからの希望があるからこそ人間は生きる力を持っていることを僕は感じました。大使館めぐりして良かったと心の中で深く思っています。



ここで、営火の練習とスタンツの練習。
歌もしっかり歌い、スタンツは各組に分かれて真面目に練習をしていました。
3日からの舎営が天候に恵まれ、スカウトの成長と楽しい思い出をおみやげに出来ればこんなに嬉しいことはありません。
そんな気持ちになった準備会でした。

4組 DL 和田 緑

今回は夏季舎営直前の活動ということで、朝から猛暑の中、舎営当日の大きな荷物を背負って集合しました。尾山台小の中に入った時には、リーダーもスカウトたちも汗だく状態。少し落ち着いてきたころ始まった荷物チェックでは、くま・しかはさすがに慣れた様子でチェックしていきますが、うさぎは自分の荷物を把握していない様子の子が多く、なかなか進みません。それでも一度荷物を開いてみたことで、自分の物に対する自覚と責任が少し芽生えたように感じました。案の定、元通り入れ直すことは難しいようでしたが…。営火の歌やゲームでは、練習ながら意外にも盛り上がり、大きな笑い声を上げて楽しんでいました。これに各組のスタンツが入ると、どうなるのだろうと今から楽しみです。
最後のスタンツ練習では、みんな他の組の様子を気にしながらも、DLの作ったお話を基に自分たちのアレンジを加えたりしてオリジナルのスタンツを作り上げようと頑張っている様子が伺えました。直前にあった各組の成績順位発表で、やる気が増しているように感じました。私たち4組も「もう一回やってみよう！」と時間ギリギリまで頑張っていて、微笑ましく思いました。3泊4日の夏季舎営では色々な企画が盛りだくさんで、初めて参加する私自身も少しの緊張と共に、何が起るのかスカウトたちがどんな成長を見せるのかとても期待しています。

3組 うさぎ

7月22日 日曜日
8月3日から6日に行くキャンプの準備が忙しかつけど、確認できてよかったです。
初めてのキャンプ、楽しみです。

4組 しか

夏季しゃえいのじゅんぴは意外とむずかしかったです。なぜなら一つ一つに名前を書くからです。スタンツの練習では最初、気持ちをこめて言うセリフがむずかしかったです。その後たくさん練習して、なれてきたのでスラスラできました。夏季しゃえいが楽しみです。



ボーイ隊 7/1 ジャンボリー(17NSJ)結団式

BS隊 オットセイ班
僕は、世田谷5団のスカウト代表として、花俣団委員長と一緒に、7/1のジャンボリー結団式に参加しました。いざ会場に入ってみると、普段は見慣れない東京中のスカウト・リーダーが大勢集まっていて、17NSJが特

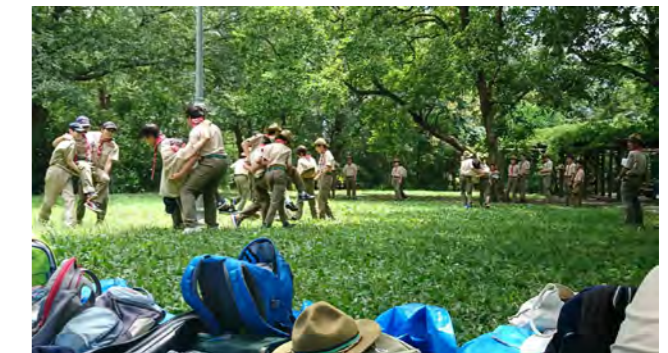
別で大規模な行事であることを改めて感じました。式では各地区の紹介やジャンボリーの説明がありました。結団式に参加して、ジャンボリーの実感とやる気が湧きました。

7/8 ジャンボリー(17NSJ)合同隊集会 @二子玉川兵庫島

BS隊 オットセイ班
今回のボーイスカウト合同隊集会はとても有意義なものとなりました。他の隊の人たちの名前を覚える事でジャンボリーの際に同じ世田谷のスカウトとして信頼関係を築けたと思えます。この経験を生かし、これから長く続けていく、スカウトのスキルアップを図っていきたいと思います。

BS隊 カモメ班
今回の活動は、ジャンボリー期間中に同じサイトで生活する世田谷11団との合同の活動でした。主な内容は、11団と親しくなるために自己紹介などをしたり、ジャンボリーの説明やジャンボリーに必要な物が配布されたりと、午前中だけでありながら非常に充実した活動でした。いよいよジャンボリーが近づいてきたと、今回の活動で僕は実感しました。ジャンボリー期間中は楽しく、そして安全にも気をつけながら、11団とも協力し合って過ごしていきたいです。ボーイスカウト生活最高の思い出を作って家に帰りたいです。

BS隊 トナカイ班
世田谷の他の隊の人たちも来ていた。ジャンボリーの時のルールを決めた。ジャンボリーの日が近づいてきた。とても楽しみです。



ボーイ隊

7/11 班集会・勉強会@奥沢区民センター

BS隊 カモメ班

奥沢区民センターで勉強会がありました。勉強会では先輩スカウトやリーダーに学校や塾などの課題をみてもらったり、またハイクの企画の立て方などを質問できたりと、とても学びが深まります。(いつもありがとうございます!)是非ボーイのみなさん、参加しましょう!(ぼくしかいないことが多いので)



7/22 ジャンボリー(17NSJ)壮行会 @ 国士舘大学

BS隊 オットセイ班

今回の活動では、ジャンボリー前最後の活動として、世田谷地区合同の会が開かれました。いろんなスタッフの方々や、リーダー達も参加していました。ジャンボリーに向けての心持ちの話や、ちょっと早いと思ったけど「行ってきます」宣言などをしました。ジャンボリーが近づいてきたなと感じました。その会が終わった後、連絡事項などが伝えられました。カモメ班は、洞窟探検が当たったようで、行きたかったです。また、ジャンボリー会場では、いろいろな賞があるそうなので、2・3個取りたいなと思っています。ジャンボリーまで、一週間を切りました。気を引き締めて7日間頑張りたいと思います。

BS隊 カモメ班

僕は久しぶりにボーイの活動に参加した。その活動が壮行会だったのは幸運以外の何者でもなかった。幸運だった理由は、沢山の嬉しい知らせを聞いたからだ。

1つ目は、壮行会限りではあると思うが、阿部くんがスカウトの前に立って「行ってきます!」的なコメントを言う役になったことだった。どんな風に決めたのかは知らないが、普段そんな場面には出会えないので嬉しかった。

2つ目は、世界ジャンボリー行きのスカウトが正式決定したことだった。5回からは(当日いた人の中では)中澤くんが選ばれていた。9割方外国人の中に中澤くんが行くのだと思うと驚きだし、自分のことのように嬉しかった。

3つ目は、カモメ班がジャンボリーにおいて、皆が行きたがっていた洞窟探検に当たったということだ。正直僕はそんなことになっているとは全く知らなかった。最初は驚いたが同時に嬉しくも思った。もうジャンボリーは目の前だ。それまでにできる限りのことをして、最大限楽しんでこようと思う。

BS隊 トナカイ班 長井謙介

私は、JPジャンボリーに向けて今回のセレモニーで覚悟しました。自分はボーイスカウトとして、班のため、隊のため、自分のために動き、帰って来た時には立派に成長することを心に約束しました。そして、さまざまな人のお陰で、無事に世界ジャンボリーに行くことが決まり、JPジャンボリーで学んだ事も行かせる様に頑張ります。



ローバー隊

RS隊 大浦晋

「情報との付き合い方」

我々は高度情報化社会に生きている。世界はインターネット網に覆われ、どれだけ長生きしても消化しきれない程の膨大なデータが、24時間365日世界中を巡っている。情報が資源として価値を持ち、情報を制する者が世界を制する。そんな時代が到来した。

そんな現代において、ITスキルは必須である。ところが、教科としての「道徳」と同じく、「情報」の授業はいささか軽視されすぎている。

高度情報化社会を生き抜くうえで重要なものがある。先にも述べたITスキルや、たびたび取沙汰されるネットリテラシーも大切だが、もっと具体的なデバイス、情報という仮想的存在と物質世界に生きる我々の橋渡し役、スマホである。

まず前提知識として、情報端末についておさらいしておこう。情報端末とは情報の伝送路の末端にぶら下がるモノの事である。この端末は様々な形態をとり、その主流は過去何度か代替わりを果たしてきた。数年前まではノートパソコンであり、今はスマホである。

情報端末として従来のノートパソコンよりスマホが優れている点として、その携帯性がある。小型ゆえにどこにでも持ち運ぶ事ができるのだ。加えて、モバイルデータ通信網が整備されたため、常時インターネットに接続することが可能となった。この携帯性と常時のネット接続という2点が、情報との付き合い方を変え、我々の生活を良くも悪くも一変させたのだ。

さて、タイトルの通り情報との付き合い方について話そう。ここで言いたいのは、よくあるネットリテラシーという抽象的な話ではなく、スマホを使う上で意識すべき具体的なことである。情報との円滑な付き合いにおいてネットリテラシーは必須ではあるが、それ以前の話として、多くの人のスマホの使い方はいささかいい加減に過ぎるのだ。

情報は今日、物質資源と同等に重要な意味を持つ。そんな状況にあって、そこへのアクセス手段としての情報端末は唯一スマホのみ、という人は少なくない。したがって、スマホの使い方ひとつであらうという間に情報漏洩のリスクに晒されてしまう、ということはもっとも危機感を持って認識されるべきである。基本的に情報は公開するものではない。秘密にすべきものは秘密にしなければならない。ところがスマホは、正しい設定をしないと情報の保管場所として非常に脆弱だ。スマホを使うにあたり、次の3点に注意すべきである。

まずは画面ロックを必ずかけること。特に年長者が、ガラケーの名残でロックをかけずに使っているのを時

たま見かけるが、鍵付き金庫は鍵をかけずに使うものではない。

またAndroidユーザーの多くはSDカードをスマホに挿していると思われるが、これはセキュリティの観点からみてあまり良いものではない。ご存知の通り、SDカードのデータはスマホのロックの有無とは無関係に簡単に中を見られるからである。他人に見られて困るようなデータはなるべくSDカードに保存しないといった対策が考えられるが、最近のスマホは十分な容量を持っている事が多いので、引継ぎ等の場面以外ではSDカードを使わないという選択肢も有効だ。

そして残るのがスマホそのものの暗号化である。実はある程度の専門的な知識を持ち合わせていれば、高価な専用機械が無くともパソコンを活用してスマホの内部データをロックを無視して抜き取る事が可能である。この時暗号化がされていないと、個人情報が出てしまう。iPhoneでは自動で暗号化処理を行っているの心配はないが、Androidでは個別の設定が必要なものも多く、注意が必要である。

これら3点、特に最後の暗号化は、意識しない事が多いのではないだろうか。情報化社会はまだ日が浅く、こうしたことはまだ学校の授業では教えられないかもしれないが、情報と付き合う上で必須の知識としておさえておきたい。

さて、ここまではスマホのセキュリティに関する話である。しかしそこで注意すべき点として挙げた3つは、実は「そなえよつねに」を実践するときにも役に立つ。

どういうことか?

1つ目の「画面ロックを必ずかける」は、家に例えると戸締りに相当する。そしてさらに抽象化すれば、それは「問題発生前の最初の対策をうつ」ということである。

2つ目の「SDカードをなるべく使わない」は、大金を無闇に持ち歩かないことに相当する。それは「問題発生確率を下げるために弱点をさらけ出さない」ということである。

3つ目の「スマホそのものの暗号化」は、仮に財産を盗まれても使えないようにすることに相当する。例えば紙幣ではなくクレジットカードであれば、犯人が使うのは比較的難しくなる。それは「問題が発生したとしても大事に至らないようにする」ということである。

以上の3段階の考え方は、スマホやお金の問題に限らず「そなえよつねに」の実践において有用である。実際、登山などを計画するときの安全確保を考えると、

この3段階のそなえをしていることに気づく。

第一に、登山をするスカウト達に対して安全意識を高めるよう指導する。

第二に、危険な道や橋などを避けたり、天候が悪化すれば登山を中止したりする。

第三に、万が一怪我人が出たときのために、緊急病院の事前把握や、そこまでの輸送手段の準備しておく。

ここで確認したITセキュリティとボーイスカウトの安全確保の例に限らず、様々なモノ・コトについて、大事なポイントを抽象化するとそこに共通した思想が見出されることは良くある。

本エッセイの前半で情報と物質（あるいは仮想と現実）という対立項を出し、情報（仮想）が物質（現実）の世界に強い影響を与えるようになってきていることを述べた。実はこの情報と物質の関係については、近年物理学の分野で大きな進展があった。それは「情報熱力学」と呼ばれる新しい物理理論である。

情報熱力学では、情報理論の父と呼ばれるクロード・シャノンが考案した「シャノンエントロピー（平均情報量）」と、物質の世界の量である「熱力学的エントロピー」とが、ある種の同一視をされる。そのときに重要となる思考実験が「マクスウェルの悪魔」なのであるが…

「熱力学第二法則は、閉じた系において、エントロピーは常に増える」という原理がある。これは、物理法則のほとんどが「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理の一例である。

…とやり始めるとあまりに長く・難しくなるので、情報熱力学の話はまた今度にしよう。重要なのは、情報と物質の関係は、我々がかつて思っていた以上に「本質的に近い」ということである。そしてこの「本質的な近さ」について敏感であることは、様々なモノ・コトに関わっていくときに重要なことなのだ。

ボーイスカウトもIT化の流れに積極的に乗っていくべきであることに、今更反対する人は少ないだろう。単にITを利用するのにとどまらず、ボーイスカウトとITの本質を見抜き、両者の美点を高め合わせること。ボーイスカウトとITのそのような「深い」融合を、世田谷第5団のIT担当として考えていきたいと思う。

「ボーイスカウトの未来」について、先述の通り、ボーイスカウトの未来は、ボーイスカウトの文化の継承と、ボーイスカウトの文化の進化の両方がある。ボーイスカウトの文化の継承は、ボーイスカウトの文化の継承の重要性を認識し、ボーイスカウトの文化の継承を推進することである。

RS隊 隊長 渡口要

科学と詩 第7回

「ボーイスカウトの未来」について、先述の通り、ボーイスカウトの未来は、ボーイスカウトの文化の継承と、ボーイスカウトの文化の進化の両方がある。ボーイスカウトの文化の継承は、ボーイスカウトの文化の継承の重要性を認識し、ボーイスカウトの文化の継承を推進することである。

「ボーイスカウトの未来」について、先述の通り、ボーイスカウトの未来は、ボーイスカウトの文化の継承と、ボーイスカウトの文化の進化の両方がある。ボーイスカウトの文化の継承は、ボーイスカウトの文化の継承の重要性を認識し、ボーイスカウトの文化の継承を推進することである。

「ボーイスカウトの未来」について、先述の通り、ボーイスカウトの未来は、ボーイスカウトの文化の継承と、ボーイスカウトの文化の進化の両方がある。ボーイスカウトの文化の継承は、ボーイスカウトの文化の継承の重要性を認識し、ボーイスカウトの文化の継承を推進することである。

『あなたの人生の物語』には、次のような記述があります。

「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理がある。これは、物理法則のほとんどが「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理の一例である。

「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理がある。これは、物理法則のほとんどが「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理の一例である。

「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理がある。これは、物理法則のほとんどが「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理の一例である。

「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理がある。これは、物理法則のほとんどが「時間経過とともにエントロピーが増える」という原理の一例である。

ここで「作用（action）」と呼ばれているものは、「運動エネルギーと位置エネルギーとの差」を「時間で積分し」て計算されます。このときの積分を、特に「作用積分（action integral）」と言います。作用積分こそが、ヘブタポッドにとって最も「初歩的」なのです。

それでは「物理法則のほとんど」を「記述しなおせる」という「変分原理」とは何か？ 実は、「作用が最小値をとる状態が、現実に出現する状態である」という原理があります。これは、物理学の最も強力な成果の1つで、「最小作用の原理」と呼ばれます。そしてその最小作用の原理をさらに普遍的・一般的にしたものが「変分原理」なのです。

ここで重要なのは、「最小値をとる状態」を具体的に求める「変分」という計算方法が微分と似ていることです。実際それは、微分の親戚と言えます。したがって、変分原理に基づいて現実に出現する状態を計算するのは、「作用積分によって計算された作用の変分をとる」つまり「積分したものを微分する」操作と言えます。大胆に言えば、変分とは「積分的微分」なのです。

「変分原理」は、物理学の最も強力な成果の1つで、「最小作用の原理」と呼ばれます。そしてその最小作用の原理をさらに普遍的・一般的にしたものが「変分原理」なのです。

中動態が「受動的能動」と言えることは、2018年さくら5月号：6. Middle voiceで述べました。また、微分が能動態だとすれば、積分は受動態だとも述べました。したがって、ここに以下の対応関係が導かれます。

・能動態（≒受動態）↔中動態（=受動的能動）

・微分（≒積分）↔変分（=積分的微分）

・微分方程式（≒積分方程式）↔変分原理

つまり変分原理とは、物理法則の中動態的表現なのです。

具体例を挙げましょう。再び野球のボールを考えます。

すでに説明した通り、微分方程式による運動の表現は「逐次的」で「因果律的」です。打たれたボールの「この瞬間」の位置とスピードと働く力から「次の瞬間」のボールの状態を順次計算していくからです。

それに比べて、変分原理による運動の表現は随分様子が違います。打たれたボールの描く軌跡が、打たれた位置と落下位置とを結ぶ線の中で「最適」なものとなる。ボールの作用が最小になるような軌跡を、打たれたボールは「なぞる」のです。

変分原理で決定された軌跡を「なぞる」ボールには、「次の瞬間」がありません。ボールはあたかも、過去のスタート時点（=バットで打たれた瞬間）で未来のゴール（落下位置）を知っていて、スタートとゴールを結ぶ線が「同時的」に決定される。そのときボールには、「過去に原因があるから未来の結果にいたる」という因果律が適用されず、「原因はなく、最初から結果がある」ように見えます。ボールを擬人化して言えば、「目的論的（あるいは合目的的）」ということになります。

・因果律的↔目的論的

そんな目的論的なボールにとっては、未来は予測するものでは無いし、変えられるものでもありません。未来（=結果=目的）は決まっていて、それに向かって決められた軌跡を「なぞる」だけなのです。

「変分原理」は、物理学の最も強力な成果の1つで、「最小作用の原理」と呼ばれます。そしてその最小作用の原理をさらに普遍的・一般的にしたものが「変分原理」なのです。

変分原理で考えた時のボールの動きには、「自由意志」が無いように見えます。もちろん、ボールの動きは物理法則と数学で決まっていて答えは同じ。その意味では、微分方程式と変分原理とに違いはありません。ですから、ここで言っているのは現実のボールの動きに対する解釈の違い、つまり世界観の違いにすぎません。

その上で言えば、変分原理による自由意志の否定は、それが中動態の世界観に基づくことを意味します。そして、2018年さくら5月号：6. Middle voiceで説明した通り、自由意志を否定する中動態的な構え・受動的能動は、近年の文学者・哲学者・表現者の間で広くポジティブに捉えられています。なぜならそれは、人に「引き受けるという能動性」・「覚悟」をもたらしてくれるからでした。

・意志↔覚悟

ヘブタポッドには時間がありません。同様に、変分原理にもある意味で時間がありません。ですから、ヘブタポッドも（変分原理で考えた）ボールも、決まった（人）生・決まった軌跡を「なぞる」だけです。「レールが敷かれた人生」という言葉は普通ネガティブな意味で使われますが、それをポジティブに捉える構えがあり得るのです。

9. Be prepared

9.1. クリント・イーストウッド

「クリント・イーストウッドの映画監督としての活躍には目を見張るものがあります。その彼の一貫したメッセージが、中動態＝「引き受けるという能動性」です。具体的に作品を挙げて説明することも出来ませんが、ここでは俳優としての彼の代表作を1つ挙げます。

近年、クリント・イーストウッドの映画監督としての活躍には目を見張るものがあります。その彼の一貫したメッセージが、中動態＝「引き受けるという能動性」です。具体的に作品を挙げて説明することも出来ませんが、ここでは俳優としての彼の代表作を1つ挙げます。

イーストウッドは俳優としても超一流です。それは、彼がワザとらしい「名演技」をするからではなく、その映画の中での「佇まい」、つまり「構え」が素晴らしいからです。それを堪能できる作品が、1971年から1988年にかけての「ダーティハリーシリーズ」5部作です。

イーストウッド演じる主人公ハリー・キャラハンは、.44マグナムを愛用するサンフランシスコ市警の刑事です（英語では“inspector”ですが、これはいわゆる“detective”に相当します）。犯罪者に容赦しない性格ですが、法律は基本守ります。

シリーズ中唯一イーストウッド自身が監督も務め、最大のヒットとなった『ダーティハリー4』の冒頭。強盗と対峙したキャラハンは、“Go ahead, make my day”という映画史に残る名セリフをはきます。“go ahead”は「やれよ（先に撃てよ）」、“make my day”は「俺を楽しませろ」ですから、“Go ahead, make my day”で「やれよ、俺を楽しませてくれ（先に撃てよ、そうすれば俺も撃てるから楽しいことになるぜ）」という意味になります。

このセリフはイーストウッドの佇まい・構えをよく表しています。重要なのは、このセリフが受け身=受動的であること。つまり、キャラハン刑事は能動的に相手を倒す性格ではなく、相手が先に動くのを待つタイプなのです。

いや、この言い方は不正確です。ここまでのエッセイを読んでくれているならば、この佇まい・構えの意味はよく分かるでしょう。それは中動態と呼ぶべきものです。すでに何度も書いているように、それは「（なんとかしてやろうという）意志」ではなく「（なんでもこいという）覚悟」です。受動的能動あるいは「引き受けるという能動性」と呼ぶべきものです。強盗に銃を突きつけながら、キャラハン刑事=イーストウッドが絶妙な表情で“Go ahead, make my day”と言うシーン。是非とも観賞して、中動態的世界観を味わってください。

以上に示したイーストウッドの佇まい・構え・世界観は、彼の監督した／主演した映画に一貫しています。

『荒野の用心棒』・『夕陽のガンマン』・『続・夕陽の

ガンマン』のマカロニ・ウェスタン3部作をはじめとして、『許されざる者』や『スペースカウボーイ』などで、彼はいつもカウボーイを演じました。明示的にカウボーイの名が付いていなくとも、イーストウッドは全ての映画で常にカウボーイであった、と言ってもよいでしょう(例えば『グラン・トリノ』での、元軍人で自動車工の老人役)。それはイーストウッドのカウボーイが、常に中動的な佇まいをたたえているという意味においてです。

9.2. そなえよつねに

さてここで、この「カウボーイ」という単語、あるいはその対であるインディアン、さらにはキャラハン刑事の階級="inspector"→"detective (刑事)"→"detective (探偵)"→ホームズを経由して、イーストウッドをボーイスカウトに接続します。

2018年さくら2月号:3. Successで引用したB-Pの言葉の最後の部分は以下のような内容でした。

*****引用開始*****

But Happiness is not merely passive; that is, you don't get it by sitting down to receive it; that would be a smaller thing — pleasure.

But we are given arms and legs and brains and ambitions with which to be active; and it is the active that counts more than the passive in gaining true Happiness.

しかし、幸福は単に受動的なものではありません。つまり、座ってただ待っていても手に入れることは出来ないのです。座ってるだけで手に入れられるのもとつつまらないもの、 — 快樂にすぎません。

しかしながら、私たちには能動的に行動するための腕、脚、頭脳、そして志が備わっています。したがって、受動的であることよりも能動的であることが真の幸福に通じているのです。

*****引用終り*****

ここからは、B-Pが受動ではなく能動を奨励していることが分かります。ということは、このエッセイで能動態の対立項として紹介している中動的構えもB-Pは否定しているのでしょうか？

私はそうは思いません。2018年さくら4月号:5. Non zero sumで説明した通り、B-Pの考えが“non zero sum”を肯定していることは明らかです。そして2018年さくら5月号:6. Middle voiceで説明した通り、その“non zero sum”の世界観は中動態の世界観と深く響き

合っています。したがって、B-Pの思想は中動的であるはずで

私の考えでは、B-Pは中動的の発想を持っていましたが、その言語化に至らなかったのです。そこで、我々は言葉を補って、B-Pの言葉を現代に蘇らせなければならぬのです。

これは「捏造」と言ってもいいでしょう。しかしその「捏造」には根拠があります。B-Pの、いやボーイスカウトの最も有名な言葉:「そなえよつねに (Be prepared)」です。

そなえよつねにというモットーは、未来に起こりうる様々な事態に対して準備すべし、という意味です。それは、雨具を用意するとか火起こしスキルを磨くとかいった具体的準備のこともあれば、健康状態を保つとか良い心構えでいるとかいった抽象的準備のこともあるでしょう。

しかしいずれにせよ、このモットーは「何が起きてもそれを引き受けるべく準備しておく」ことを意味している点で、中動的な世界観に根ざしています。つまり「引き受けるという能動性」です。

勘違いして欲しくないのですが、ボーイスカウト活動におけるスカウトの能動性や自発性を否定しているわけではありません。能動的・自発的な行動は多いにやるべきです。実際、ダーティーハリーことキャラハン刑事も能動的・自発的に事件を解決します。

しかしその上で、言い方が難しいのですが、イーストウッドは「最後の決定的な瞬間」において、中動的構えの人間なのです。「具体的な場面ではもっぱら能動的であるが、根本的な世界に対する接し方は中動的である」と言っても良いでしょう。

このような態度はニヒリズムとも言えます。しかしそのニヒリズムは、能動性や自発性を否定しません。未来はしよせん変えられない(ヘプタポッドは「未来を過去のように知っている」のでした)。にも関わらず能動的・自発的に行動する。そのような矛盾を抱え込む者こそが中動的な存在であり、古代ギリシアでは「英雄」と呼ばれました。つまりそれが「覚悟」なのです。

イーストウッドは、覚悟を決めた古代ギリシア的英雄です。“Go ahead, make my day”というセリフは、このことを端的に示しています。

そして私は、“Be prepared”という短いモットーの中に、“Go ahead, make my day”と同じ響きを感じ取りました。『荒野の用心棒』でカウボーイ役としてハットをかぶるイーストウッドの佇まいと、ボーイスカウトの創始者として同じようなハットをかぶるB-Pのあの有名な肖像は、共通の世界観を示しているように私には思われたのです。

(つづく)



会議報告

団会議・団委員会 7月14日 19:00～ 奥沢区民センター第3会議室

- ★ 各隊報告
- ★ けやきネット更新、再登録について
- ★ 活動費集金状況について
- ★ 団委員会のあり方について
- ★ カントリーデー 9月9日 集合:9:30 等々力溪谷ゴルフ橋入口



会議予定

- 9月9日(日) 育成会役員会 9:30～ 尾山台ロイヤルホスト(予定)
- 9月22日(土) 団委員会・団会議 19:00～ 尾山台地区会館第1会議室

育成会より

10月20日(土)21日(日)の両日、今年も尾山台フェスティバルに参加いたします。例年の交通整理と平行し、5回としてブースを設け、幾つかのスカウト体験を催し、新たなスカウト拡充を目指したいと思っております。

スカウト達にもご協力いただき、盛り上げてもらおうと考えておりますが、ぜひ保護者の皆さまにもお手伝いをお願いしたいと思います。

別途メールにてご案内を予定しております。